

東日本大震災医療支援記録集序文

新潟県医師会長

渡 部 透

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、巨大津波を引き起こし、原発事故等で未曾有の大震災となった。

あらためまして、この大震災で不幸にして亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、被災された住民の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

この度、東日本大震災に対して、新潟県医師会が県行政、関係諸団体と共に行った、医療支援等に関する活動の記録集が刊行される運びとなりました。

この記録集は文字通り私達の実際の支援活動等の記録を残すことが本来の目的ではありますが、今後の災害に対してもお役に立つことができれば幸甚です。

本記録集の内容は、県医師会対策本部の活動、他県医師会との連携、DMAT、急性期支援チーム、日本医師会災害医療チーム（JMAT）の報告、災害地からの患者、要介護者の受け入れ、原発災害地域からの住民救護、県内避難所への支援、義援金のお願いと配布等、広範囲になりました。それに加えて関係者から支援活動の評価と今後の課題等の記載もお願い致しました。

当県は、中越地震、中越沖地震と大へんな被害を受けましたが、その経験が今回どのように活かされたのか、今後の災害にどのように役立てるべきかの提言も載せております。

日本医師会災害医療チーム（JMAT）は、日医委員会でもまだ検討段階であったため、指令の機能が十分でなく、現地で系統的な指示がなされな

かったにもかかわらず、全国から多数のチームが JMAT として派遣され、一定の成果があげられたと思っております。

当県も対策本部設置当初から県福祉保健部との連携、役割分担が図られたことで、石巻市へ災害拠点病院から 1 チーム、JMAT として 1 チームの合計 2 チーム、5 月末まで合計 85 チームを毎日隙間なく派遣できました。しかし、各チームとも、交通手段の確保、医薬品の携行や寝食を自前で準備、確保せざるを得ない悪条件のもとでの活動でありました。

なによりも、ご自分の本来の業務を投げ打っての被災者への医療支援に懸命に従事されました会員諸氏に敬意を表させていただきます。

また、各医会からは、被災地からの受入れに関して、専門的な見地から情報提供、助言や実際の支援がなされましたことに感謝申し上げます。

義援金も会員、会員以外の個人・団体、郡市医師会から多く寄せられ、被災県医師会と被災地にて支援を行っている NPO 等の団体等に拠出致しました。

県医師会災害対策本部として多くの検討すべき課題が残りましたが、県行政、諸団体とともに解消の努力を続けていかなければなりません。

復旧、復興は道半ばではありますが、会員諸氏の熱い心と強い実行力によってこれまでの東日本大震災への医療支援事業が成し遂げられましたことに深く感謝申し上げます。序文と致します。